

活動テーマ

島原地域の障がいのある小学生・中学生とその兄弟姉妹児の夏休み一番の思い出をつくり、保護者と他の兄弟姉妹のレスパイトを目的とするキャンプ

長崎県

社会福祉法人 島原市手をつなぐ育成会

〒855-0854 島原市萩が丘二丁目5717番地1 TEL. 0957-62-7143 FAX. 0957-63-1610

取り組み内容のポイント

障がいのある小学生と中学生が、夏休みの一番の思い出をつくることを目的に、高校生・大学生のボランティアや地域の医療・教育・福祉関係者や、一般のボランティアのスタッフとともに、夏休みに二泊三日のキャンプを実施。

活動内容

●活動開始年

昭和45(1970)年9月
任意団体時から始動

●活動の対象者

島原地域の障がいのある小学生・中学生とその兄弟姉妹児

●活動の頻度・時間

年に1回 8月 二泊三日

取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無 記載している
- ②事業報告・計画への記載 記載している

取り組みを実施している施設の概要

法人として実施している。

法人設立年

平成4(1992)年

法人実施事業

①経営施設数合計：5施設

②経営施設・事業【種別毎の数】：

- ・生活介護 2か所
- ・放課後デイサービス 1か所
- ・児童発達支援 1か所
- ・居宅支援 1か所
(身体・家事・重度訪問・行動)
- ・移動支援 1か所
- ・就労継続支援B型 1か所
- ・相談支援事業 1か所
- ・共同生活援助 2か所
- ・地域福祉活動(法人独自事業) 1か所
(キャンプ等余暇支援及び地域福祉の推進)

法人の理念・経営方針

基本方針(理念) 「いのちを守り いのちを育む・共に生き共に育つ」

- 運営方針**
1. 障がいのある人のいのちを守り、いのちを育むという使命を達成する。
 2. 職員は、障がいのある人と共に生き共に育つ仲間である。

活動実施の背景、実施にいたった理由

第1回は、昭和45(1970)年、全盲の知的障がい児6名を数名の高校生ボランティアの協力をいただき、「療育キャンプ」という名称で実施。

昭和62(1987)年、保護者の「一日でいいから、ゆっくり眠りたい」という希望に対応し二泊三日のキャンプとして実施。(保護者は参加しないことを原則とする)

平成元(1989)年、地域の若いボランティア団体「あかり会」や、地域の医療・教育・福祉関係者に協力していただくことにより、毎年開催し、参加児童の受け入れ人数も増加した。兄弟姉妹児も含め、その後、30~40人程度の参加児童となる。

平成5(1993)年、地域の福祉サービスも徐々に充実してきた現状を踏まえ、キャンプの目的も「楽しむ」という事に重点を置き、名称も「療育キャンプ」から「ひまわりキャンプ」と変更する。

普賢岳噴火災害時や感染症流行の年は中止したが、平成26(2014)年までの44年間で32回を開催し、現在も継続中である。

実施内容

- 平成26年度キャンプテーマ：
「城下町にとびだそう!! ひまわりたんけんたい」
- 参加児童・生徒：35名（兄弟姉妹児含む）
- ボランティア：高校生16名、大学生10名
- 当日支援スタッフ：69名（医療・教育・福祉・一般・調理・移動スタッフ含む）
- キャンプ会場：島原市森岳公民館（旧島原城内）全館貸し切り
- 活動内容
 - 1日目：開会式、親子・ボランティアと一緒にレクリエーション、プール活動、夕食（地域のボランティア団体が調理）記念撮影、レクリエーション（地域の団体より）
 - 2日目：オリエンテーリング
 - ・森岳商店街の皆様と島原城振興協会の皆様の協力をいただいた。
 - ・ボランティアの皆様との協力で車いすの子供たちも天守閣に登頂する。
 - ・市内の飲食店のご協力で班別に楽しく朝食できた。
 お楽しみ会（班別のだしもの）
 - 3日目：修了証づくり、レクリエーション、閉会式、反省会

活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

- 障がいのある子どもたちと兄弟姉妹児の夏休みの楽しみのひとつとして定着している。
- 保護者間の交流、保護者の医療・教育・福祉関係者との交流、相談の場である。
- 医療・教育・福祉関係職員の連携と新職員の研修の場でもある。
- 次世代のボランティア育成の場である。（毎年、高校生、大学生が約20～30名参加）
- 地域の医療・教育・福祉の人材育成の場である。高校・大学時代に参加して下さった多くの方が、現在、医療・教育・福祉の第一線で活躍している。
- 地域の多くの方たちがキャンプに協力していくことにより、障がいのある人たちへの理解につながっている。

る。島原市長が、開会式の挨拶の中で恒例のひまわりキャンプと話されていることから、地域に理解され定着していると考えられる。

- 保護者からは兄弟姉妹児について、2つの意見がある。
 - (1) 日頃、障がいのある子どもに関わる時間が多いので、キャンプの時は家でしっかり兄弟姉妹に関わる時間をとっている。
 - (2) 兄弟姉妹も一緒にキャンプに参加し、同じ環境にある兄弟姉妹児と友だちになって欲しい。
- 保護者の声：キャンプ終了時、子どもの嬉しそうな表情とスタッフとボランティアとの家族のような関係を見ると毎回とても嬉しく思います。

今後の展開

最近の傾向として、医療的ケアを必要とする障がいをもつ子どもたちの参加が増えてきた。現在は、キャンプ期間中、地域の看護協会様より2名の看護師が常駐して下さっているが、活動中の安全を考え、医療や他法人、団体等の一層の協力を深め、障がいの重い子どもたちも、安心して楽しく参加できるキャンプとしたい。

企画段階から、医療・教育・福祉関係者や一般のボランティアに参画していただき、地域でつくるキャンプにしていきたい。そのことが、障がいのある人もない人も安心して、生活できる地域となる足がかりになると思う。

主な経費や財源及び人員など

※年間あたり

主な経費(支出)	経費概算額	主な財源(収入)	財源概算額
物品料、賃借料	153,054円	補助金(島原市)	350,000円
通信費	14,060円	参加費	185,750円
保険料	21,540円	当法人負担	34,050円
食糧費	316,198円	寄付	28,000円
班別活動費・謝礼	92,948円		円
合計	597,800円	合計	597,800円

- ・取り組みに係わったスタッフ数 69名
他法人、団体ボランティア含む
（職種等：PT・看護師・教員・生活支援員・職業指導員・保育士・理事及び役員）
- ※法人全体の事業規模
（平成25年度決算の事業活動収入） 187,337,957円



食事中



2日目の島原城でのレクリエーション



集合写真